崇仁すくすくセンター実行委員会主催
公開学習会

「河原」の誕生

鴨川の地形発達から読み解く、
河原と京都の都市社会



講師

梅林 秀行

京都ノートルダム女子大学客員教授
京都高低差崖会崖長

2026年
12月25日 金
18:00–20:15

会場 **京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン**
集会室・ホール 定員：80名・事前予約制 参加費：500円

申込み 二次元コードまたはメールにてお申し込みください
contact@sukusukucentre.org

主催：崇仁すくすくセンター実行委員会　協力：森田 利浩（地域文化企画・編集）　京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

「河原」の誕生

鴨川の地形発達から読み解く、河原と京都の都市社会

なぜ、「河原」なのか？

崇仁すくすくセンター実行委員会委員長の山本麻紀子は、これまで時宗や一遍上人の足跡をたどりながら、河原という場所や、そこに生きた人々、救済や包摂のあり方についてリサーチを続けてきました。一遍上人や時宗と崇仁地域、あるいは近世の六条村との直接的な関わりを示すものではありませんが、その思想や活動をたどることは、河原や都市の周縁に生きた人々の歴史を考えるひとつのきっかけとなっています。今回の公開学習会では、そうした問題意識を出発点に、より大きな視点から鴨川と京都の都市形成を見つめます。

鴨川が地形的に形成されていく過程で、「河原」という空間はどのように生まれたのか。そこにはなぜ、都市の中心から周縁化された人々や、のちに被差別民とされた人々が集まるようになったのか。そして河原を舞台に、どのような暮らしや仕事、人と人とのつながり、社会が形成されていったのか。

講師に都市史・空間史を専門とする梅林秀行先生を迎え、鴨川の地形発達と河原の変遷をたどりながら、平安期以降の京都における人々の営みと都市社会のあり方を学びます。その歴史を手がかりに、現在の崇仁地域とその周辺についても、あらためて考える機会にしたいと思います。

ご関心のある皆さまと一緒に、京都の「河原」から都市の歴史を読み解いていきます。

講　師　梅林 秀行



京都ノートルダム女子大学客員教授。京都高低差崖会崖長。関心分野は都市史、空間史。なにげない地面の高低差をはじめ、さまざまな視点からまちなみや風景、人びとの営みを読み解く。NHK「ブラタモリ」「歴史探偵」「不滅の名城」など、歴史・地理に関するテレビ番組に多数出演。主な著書に『京都の凸凹を歩く』1・2（青幻舎）。

崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）とは

2019-2020年度HAPS主催による京都市「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業の一環として、山本麻紀子が再開発に伴い建物の解体や工事が進む崇仁地域にて、まちと共に命を育んできた樹木を挿し木として残し、育成を試みるところからスタート。2021年には崇仁すくすくセンター実行委員会をたちあげ、主に〈崇仁デイサービスうるおい〉および〈京都市下京・東部地域包括支援センター〉と協働で、地域のご高齢の方々との「挿し木」にまつわる活動を軸に、様々な人たちとの関わりを育み、土地の記憶や人の繋がりを継承していくことを目的としたプロジェクトとして継続している。2031年の春までを目途に、これらの挿し木を崇仁地域やその他ご縁のある場所に地植えすることを目標に、それまでの間、挿し木の成長とともに完成する作品制作も行っている。

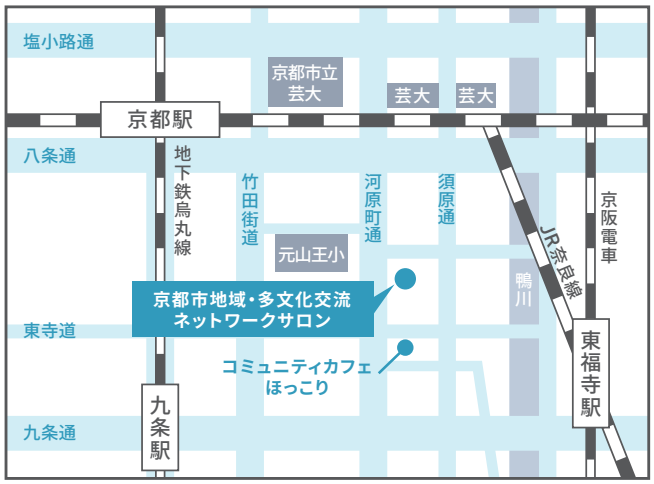
ホームページ ⇨ https://sukusukucentre.org/

会場・お問い合わせ

京都市地域・多文化交流ネットワークサロン
集会室・ホール（〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町31）

崇仁すくすくセンター実行委員会

メール：contact@sukusukucentre.org
電　話：075-342-2668（崇仁デイサービスうるおい）
受　付：10:00〜17:00／日曜休み



駐車場はありません。近隣のコインパーキングをご利用になるか、公共機関をご利用ください。